

防災・減災部門

応募事例名

東京アメッシュの降雨情報をきめ細かく提供

応募団体名)東京都下水道局

応募事例の概要

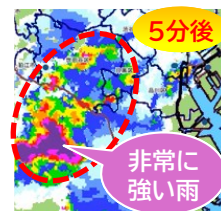
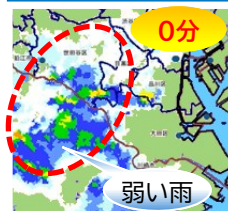
- 当局では、東京アメッシュの雨量データや雨雲の状況を把握し、雨水を河川等に排水するポンプの運転に活用
- 大雨や台風等による浸水への備えに役立てていただけるよう、平成14年度からインターネットで配信
- 都民等の閲覧回数は、令和7年度実績で年間約7億ページビュー
- 近年多発する突発的な豪雨へ備えるため、更新頻度を5分間隔から1分間隔に短縮(令和8年5月29日から)

応募事例の内容

東京アメッシュは、当局が独自に開発したシステムで、昭和63年に運用を開始しました。東京都の区部と多摩地域の2基の降雨レーダーで観測し、雨が降っている場所や強さをリアルタイムに把握できます。

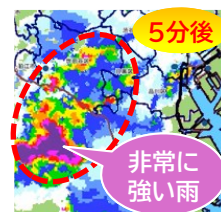
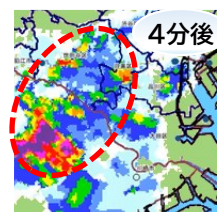
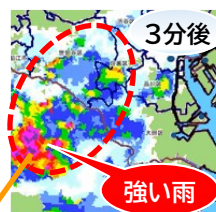
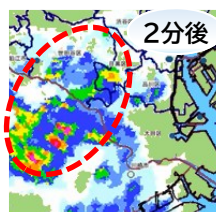
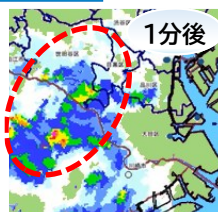
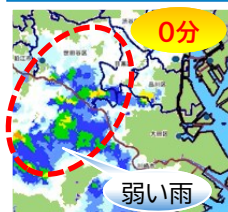
これまでの表示

5分間は画面の変化なし



新たな表示(1分間隔)

時々刻々に変化する降雨の状況を1分間隔で更新



より早く豪雨を察知

PRポイント

◆インターネット配信の実施以降、短時間大雨の備えとして、利便性とリアルタイム性を向上する機能を強化

- ①画面更新周期を1分間隔に短縮
- ②降雨強度を10段階で数値表示
- ③150mの細かい区画で降雨情報を把握
- ④GPSによる現在地表示機能や希望する2地点の登録が可能
- ⑤英語など4か国語の多言語化
- ⑥警報・注意報をひと目で把握

取組に関するエピソード

近年、東京都においても時間50ミリを超える降雨が増加傾向にあり、浸水被害を防止するためには、変化する降雨の情報をこれまで以上にきめ細かく把握することが重要です。東京アメッシュは、更新にあわせて観測精度等の機能を向上しています。



二次元コード



【スマートフォン版】